

VII 農薬安全使用推進特別対策事業

1) 農薬安全使用技術の実証・展示

① モデル地区の設置

モデル地区名	モデル地区農家数		対象作物等					農薬安全使用技術名	備考
	うち事業対象作物生産農家数	戸	作物名	栽培様式	作付面積 ha	栽培時期	主な発生病害虫		
(国見町神代) 下古買いちご 栽培組合	20	戸	いちご	促成	2	9～5月	灰色かび病 うどんこ病	トリフルミゾール イプロジオン プロシミドン	くん煙法及びキリナシノズル散布による 省力安全防除
(国見町神代) 下古買トマト 栽培組合	15	戸	トマト	促成	2	11～5月	疫病 灰色かび病 オンシツコナジラミ	TPN スルフェン酸系 DMTP イプロジオン ベノミル	くん煙、FD法、常温煙霧及びキリナシ ノズル散布による省力安全防除

(実証技術を別紙に示す)

② 農薬安全使用技術器材の導入 キリナシノズル 2本(平面野菜用 1、立野菜用 1、)

③ 調査の実施

モデル地区名	調査項目	調査内容	調査時期	調査者	備考
下古買いちご 栽培組合	省力防除の防除効果、農薬安全度等の実証	農薬残留量、付着量、散布者被ばく量、 効果等	2～3月	病害虫防除所 総合農林試験場	
下古買トマト 栽培組合	同上	同上	1～3月	同上	

④ 調査用機器の整備 該当なし

⑤ 講習会の開催

開催場所	開催時期	員数	講習項目	備考
国見町	11月21日	100人	省力防除計画指導、農薬安全基準の意義等	

2) 農薬安全使用の強化

① 指導地区の設置

指導地区名	指導地区農家数		重点指導農家数	対象作物等					残留調査		農薬安全使用強化指導員		備考	
	うち専業農家数	生産農家数		作物名	栽培様式	作付面積	栽培時期	主な発生病害虫	主な防除農薬	対象農業	試料数	氏名		職業
(国見町) 南高農協 いちご部会	戸	戸	戸	いちご	促成	50 ha	9～5月	灰色かび病 うどんこ病	イプロジオン トリフルミゾール プロシミドン	イプロジオン トリフルミゾール プロシミドン	点 56	本田 嘉文 藤山 博孝 金山 光明	農協職員 農協職員 農家	
(国見町) 南高農協 トマト部会	戸	戸	戸	トマト	促成	7 ha	11～5月	疫病 灰色かび病 オンシツコナジラミ	ベノミル TPN, DMTP, イプロジオン スルフェン酸	ベノミル TPN, DMTP, イプロジオン スルフェン酸	112	前田 一英 野口圭一郎 藤井 清敏	農協職員 農協職員 農家	

② 農薬残留調査機器の設置 該当なし

③ 診断地区の設置

診断地区名	診断対象農家数	対象作物				農薬安全使用基準 診断指導員氏名	診断補助員氏名	診断間隔
		作物名	作付面積	栽培面積	栽培時期			
国見町神代 (トマト)	戸 10	トマト	7 ha	1.2 ha	11～5月	病害虫防除所員	藤山博孝	日 10

④ 農薬安全使用基準診断システムの導入

品名	規格	員数	単価	金額	備考
農薬安全基準解析装置一式	PC-286LS (STD)	1 台	円 400,000	円 400,000	
	PCLTP2	2	17,000	17,000	
	Little-F	1	39,800	39,800	
	基準診断システムソフト及び農薬奨励システムソフト	1	500,000	500,000	
計			956,800	956,800	

3) 農薬安全使用の推進

資料名	主たる内容	配布対象者	配布部数	備考
いちご病害虫の省力防除法と農薬安全使用 トマト病害虫の省力防除法と農薬安全使用	主要病害虫の防除対策と農薬安全使用対策	関係農家、関係農協、関係普及所等	350部	

4) 事業実施の結果、問題点及び対策

項目	成果	問題点	対策	備考
農薬安全使用	危害、残留防止意識が向上した。	不十分である。	啓蒙指導の継続。	
防除の省力化	省力度合が認識された。	常温煙霧法登録農薬が少ない。 くん煙剤薬価が高い。 キリナシノズルは立野菜(トマト)では人体被ばくが多くなる。	登録促進。	

〈別紙〉

新散布法を用いた一貫散布体系

作物名：いちご

時期	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			主要指標・その他						
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下							
生育ステージ	定植 Δ _____ × _____ 収穫期 _____ × _____																								モデル地区：国見町 神代下古賀						
対象病害虫	うどんこ病			アブラムシ類			ハダニ類			うどんこ病			ハダニ類			う灰どんかこび病			うどんこ病			う灰どんかこび病			うどんこ病			うどんこ病			作型：促成栽培 (無加温) 代表品種：とよのか 10a当り栽 植株(本)数：7,000株
慣行防除体系	現地慣行防除 _____ → _____																								新技術：くん煙剤及び キリナシノズル 散布による 省力安全防除 ⊗：動噴散布 ⊙：くん煙						
新防除体系	慣行散布と同一 _____ → _____																								プロシミドン ⊗ × 2,000 50g/400㎡ トリフルミゾール ⊙ × 1,500 イプロジオン ⊙ × 1,500 キリナシ ⊗ × 2,000 50g/400㎡						

〈別紙〉

新散布法を用いた一貫散布体系

作物名：トマト

時期	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			主要指標・その他
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育 ステージ	定植 Δ _____ × _____ 収穫期 _____ × _____																					モデル地区：国見町 神代下古賀 作 型：促成栽培（加温）
対象 病害虫	ア プ ラ ム シ 類			オ ン シ ナ ツ ジ コ ラ ミ			灰 色 か び 病 ・ 疫 病			灰 色 か び 病			灰 疫 色 か 病 び 病			灰 色 か び 病						代表品種：桃太郎 10a当り栽 植株(本)数：3,000本 新 技 術：常温煙霧、くん煙、FD法及び キラナシノズル散布による省力 安全防除
慣行 防除体系	現地慣行防除			D M T P Ⓣ × 1,000			T P N Ⓣ × 1,000			イ ブ ロ ジ オ ン Ⓣ 200g/10a			T P N Ⓣ × 1,000			ベ ノ ミ ル Ⓣ × 2,000						Ⓣ } 動噴散布 Ⓣ }
新防 除体系	慣行散布と同一			D M T P Ⓣ 300g/10a			T P N Ⓣ × 1,000 キラナシノズル			イ ブ ロ ジ オ ン Ⓣ 200g/5L/10a			T P N Ⓣ 20g/100㎡			ベ ノ ミ ル Ⓣ 150g/5L/10a						Ⓣ：フローダスト Ⓣ：常温煙霧 Ⓣ：くん煙